

## 報告書

栗山町議会議員 本田 諭

## 2010. 北海道自治体学会

目 的 地域における経済メリット、デメリット  
議会基本条例確立について

期 目 2010. 10. 16

場 所 七飯町字大沼町大沼国際セミナーハウス

参加者 大平 逸男、桂 一照、本田 諭

基調講演 講師 藻谷 浩

題 新幹線時代の地域づくり

このテーマの話についてであるがこれが全てではなく連動しての現地域（地方）における影響について話された。

北海道も新幹線時代を迎え入れる事と進められている。

こうした現実をパネルに映しながら首都圏と地方のあり方を説明された。

情報化時代の波、スピード化、経済は敏感に動いております。そこで新幹線及び高速道路がその地方にどんな形で影響が出るのかについても話された。

まず、駅の場所による街の構図が変わった。高速道路も街を避けての通過による現象、決して否定的に話をしたのではない。人の流れは大きく地方から大都市に流れ、逆に地方には大きなメリットはないのが現実である。先の話ではないが新幹線の場合も都市への流れが非常に多い事と新しい街が出来ると同時に旧市街と言う街が出来そうである。

今後地域作りの中でこうした現実を迎える時にどう取り組んでいくべきか地方に課せられた大きな問題として提示された。

分科会では3分科会の議会改革と住民自治、コーディネーターはNPO法人自治体政策研究所理事 森 啓氏、パネラーは函館市議、福島町議会事務局、森町議会より各一名ずつ40名余りの方が出席されました。

私ごととして森氏が栗山町議会基本条例に対し批判的でありましたので興味もあり、参加を試みた次第です。

彼曰く条例を確定した時住民の意思は？・・・なぜ入れなかったのか又自治基本条例の前になぜ作りあげたのか、議会が一人歩きをしているのではないかなどと自分の見解で言っ

ていた様なので我が議会の基本的な考えを申し上げた。又、話の中で改革として取り組まなければならない。

一つは過去の慣例にとらわれる事、その二として会派制のあり方、多数による力関係又、個人の主張が反映されないケースが多いなど。

ここで他議会からの話しは住民にどう向いて進んでいるかなど議会としてのあり方が話された。

私達としての取り組みはやはり情報をいち早く住民に届ける事、住民に自ら進んで入って行く事の大事さ、住民の利益を損なわない事を一番として取り組んでいる事を話した。渡島管内でのフォーラムに私達空知の議員が参加したことに意義が有ったと感じている。